

健

(理事長・高久史磨東京大名誉教授)が実施した調査で明らかになった。日本全体で130万人お

さらに一昨年1~9月の間に受診したデータから抗凝固薬の服用中止率10年以内に4人のうち3

脳梗

「きょうは「父の日」。家族に祝われる年齢になるころ、気になる病気のひとつが前立腺がんだ。しかし、定期的な検査による早期発見と治療で完治は可能。手術ロボットや特殊な放射線機器を使った県内の先進的な治療と検査方法について紹介する。(菱倉 昌)

前立腺がん 早期発見で完治可能に 進歩した治療、神奈川は先進県

前立腺は男性だけにあるクルミ大の器官で、膀胱のすぐ下に位置する。前立腺がんは中高年男性に多く、高齢化や食生活の欧米化と検査精度の向上で、日本人の患者数は2000年に2万3千人、06年に4万2千人と年々増えている。早期には自覚症状がなく、無症状で骨に転移することもあり、排尿障害などの自覚症



湘南鎌倉総合病院泌尿器科三浦 一郎部長

状が出た時には進行している場合が多い。

緻密な手術

前立腺は骨盤の奥にあり、近くに血管や尿道括約筋、勃起神経があるため、摘出手術中に出血しやすく、術後に尿失禁や性功能障害が起る恐れもある。それらを解消するのが、体内で緻密な作業ができる米国製の内視鏡手術支援ロボット「ダヴィンチ」だ。県内4病院に導入されている(全国で約110台)。ロボット部と操作部、助手用モニターで構成され、ロボット部の先端に鉗子やメスを取り付ける3本のアームと内視鏡を備え、医師は箱型の操作部に映る内視鏡画像を見ながら遠隔操作する。

双眼鏡式のスコープで患部を立体的に拡大し、狭い空間でも広い視野が得られ、鉗子

を人の手よりも細かく自在に動かせる。湘南鎌倉総合病院(鎌倉市岡本)は、昨年6月に導入して医師が操作に必要な技術を習得し、9月から手術開始。既に約20件の症例がある。手術時間は経験を積むと開腹手術より1~2時間短い3~4時間で完了できる。泌尿器科の三浦一郎部長は「出血量は50ccと開腹手術に比べ1割以下。入院日数も約1週間程度で開腹手術の半分と短い」と話す。

約2分半で

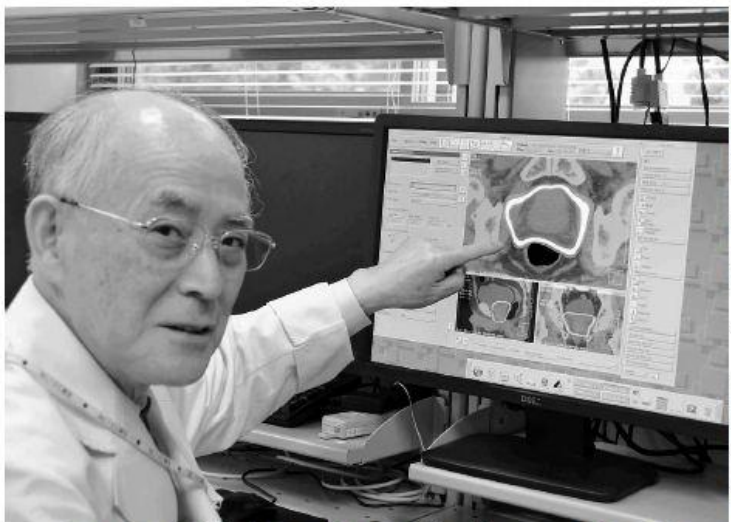
放射線治療の進歩も著しい。川崎幸病院(川崎市幸区)は治療機器として特殊な仕様の「リニアック」を導入し、腫瘍に集中照射できる強度変調放射線治療(IMRT)を行っている。「照射部を360度回転させながら、腫瘍に合わせて効率よく照射し、すぐ近くの直腸に当たるのを避けている」と放射線治療センターの田中良明センター長。一般的なIMRTで1回数十分かかる照射が、この機種では約2分半で済む」と利点を話す。治療機器に取り付けられ

たコンピューター断層撮影(CT)と連動して正確な位置合わせができるのも特長だ。治療には38回の照射が必要で、平日に毎日通院して7週半かかるが、時間休を取り、働きながら通院する人もいるという。

まずは検査

これらの医療機関が動めるのは、前立腺がんを早期発見できる「PSA検査」だ。PSAは前立腺で作られるタンパク質の一種で、前立腺がんになると増加し、血液検査で数値が高いほどがんが疑われる。同検査は①住民検診②人間ドック③一般医療機関(前立腺がんが疑われる症状がある場合)で受けられる。住民検診での対象年齢は50歳以上が一般的だが、人間ドックや一般医療機関では40歳から。自己負担は500~3千円だが、住民検診では無料の自治体もある。

早期発見・治療で完治できる前立腺がん。「特に50歳を過ぎた男性には定期的検査が対策の第一歩」と医師らは呼び掛けている。



照射の形(環状の部分)を変えて腫瘍に集中させ、直腸(黒い部分)を避ける治療計画を示す田中良明センター長 川崎幸病院